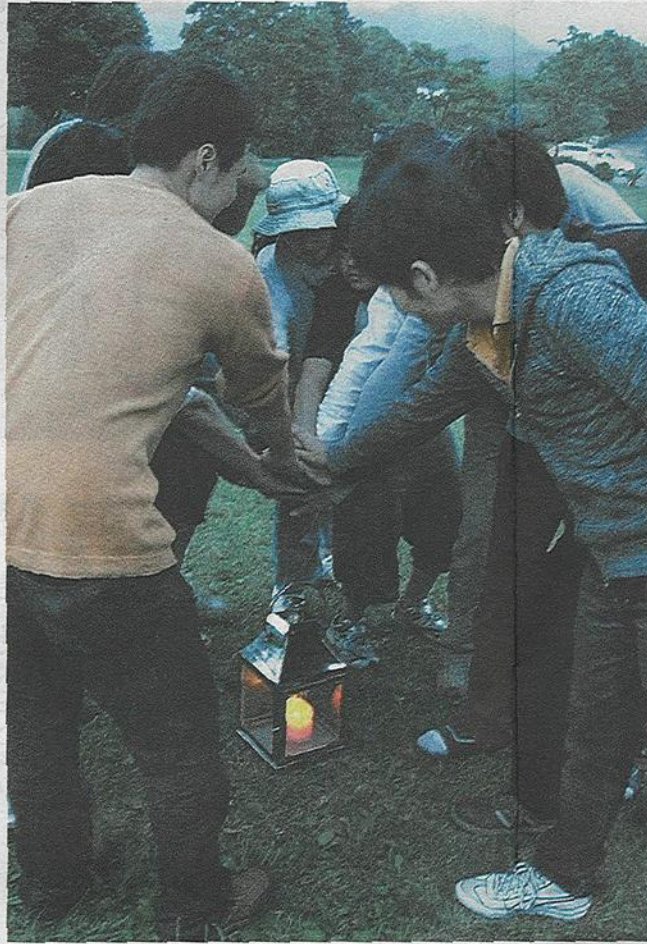


「平和の火」を世界へ

100万人のキャンドルナイト

電気を消してスローな夜を過ごす「100万人のキャンドルナイト」に、世界の恒久平和を願って燃え続ける八女市星野村の「平和の火」から採った種火をともし、平和の尊厳や命の重さを考える運動「Candle Night Ipi:ce」が全国各地に広がっている。



採火した平和の火を囲むピースフレンド（2009年、提供写真）

平和の火は、軍務中に広島市近郊で被爆した同村出身の山本達雄さん（故人）が、市中心部の残り火をおじの形見として懐炉に移して持ち帰

り、自宅で守り続けた。1968年（昭和43年）に村に引き継がれた。そこで、大阪などの20歳代から30歳代までの10人で結成

来月5、6日に採火合宿

する実行委（吉澤武彦代表）が「平和の火の存在と、火を守り続けてきた山本さんや住民の思いを全世界に伝えたい」と全国のキャンドルナイトの主催者らに呼び掛けた。初回の2007年は冬至に実施し、関西の3会場で約10

星野村で交流

参加者を募集

0人が参加した。翌年から夏至に実施し、昨年は19都道府県51会場で約3500人が参加した。今年も6月5、6日に採火合宿を同村で行い、種火を持ち帰ってキャンドルナイトを開く「ピースフレンド」を募集している。初日の平和学習では、山本さんの次男で地元に住んでいる陶芸家の山本拓道さんや被爆体験者の講演を開く。この後、採火式を行い、

夜は平和の火をともしたランプを囲み、平和について語り合いながら交流を深める。ピースフレンドは個人、団体は問わないが、平和の火の意味を理解し、市が定めた条例を順守することが条件。参加費は1人4000円（宿泊する場合は別に2500円が必要）。平和学習と採火式のみ参加も可。希望者は今月28日までに吉澤さん（06・6375・7816）へ申し込みを。吉澤さんは「平和の火は私たちにかけがえのない大切な事を語りかけてくれる。心静かに祈ったり、家族、友達など大切な人と平和や未来について語り合ってほしい。そして、その輪を福岡から全世界に広げていってほしい」と呼び掛けている。運動のタイトル「Ipi:ce」には「すべての人の個性（peace）を認め合い、争いのない真の平和（peace）を実現したい」との思いを込めている。